

平成31年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 陽東 小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成31年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

平成31年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

国語 86人

算数 86人

5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。



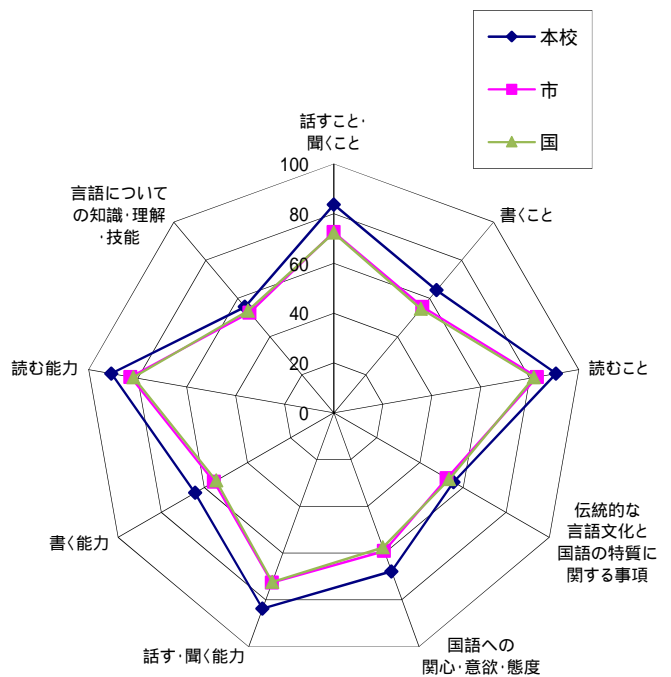
以上につきまして学校HPに掲載しております。
また、左のQRコードよりご覧いただけます。

宇都宮市立陽東小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	83.7	72.6	72.3
	書くこと	64.3	55.5	54.5
	読むこと	90.7	82.9	81.7
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	55.6	52.5	53.5
観点	国語への関心・意欲・態度	67.8	59.1	57.6
	話す・聞く能力	83.7	72.6	72.3
	書く能力	64.3	55.5	54.5
	読む能力	90.7	82.9	81.7
	言語についての知識・理解・技能	55.6	52.5	53.5



指導の工夫と改善

良好な状況が見られるもの 課題が見られるもの

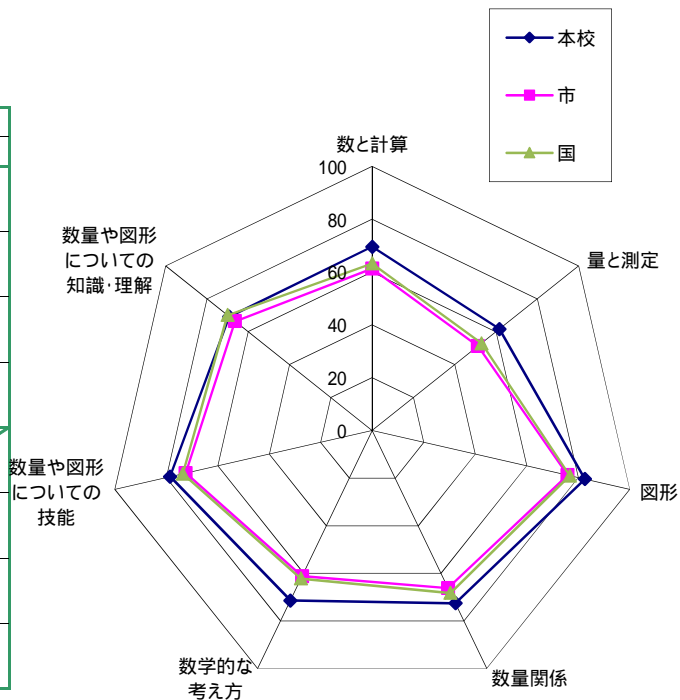
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	すべての問題で、正答率が全国・県よりも上回っている。特に、話し手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って、自分の理解を確認するための質問を選択する問題では、10ポイント以上、大きく上回っている。	・1分間スピーチなど、普段から自分の意見を要約して分かりやすく伝えたり、話し手の要点を理解して聞くこととする態度の育成に努めていきたい。 ・ペア学習やグループ学習を取り入れ、それぞれの立場で考えを伝え合うなどの話し合い活動を実践していく。
書くこと	すべての問題で、正答率が全国・県よりも上回っている。特に、情報を相手に分かりやすく伝えるための記述の仕方の工夫を捉える問題では、10ポイント以上、大きく上回っている。	・日常的に、文章を書く機会を設ける。 ・構成メモを工夫して書く、事柄を整理して書く、資料を効果的に活用して書くなど、目的に応じた文章表現ができるように指導していく。また、友達と文章を読み合い、優れた表現や工夫点に気付かせ、自分の文章に生かせるような活動を取り入れていきたい。
読むこと	すべての問題で、正答率が全国・県よりも上回っている。特に、目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にして記述する問題では、全国の正答率を10ポイント以上、大きく上回っている。	・読書活動をさらに推進していく。 ・複数の文章を読み比べ、文章の内容が把握できるように指導していきたい。そのために、調べ学習など他教科との関連を図りながら、主体的に複数の資料を読み比べる機会を設けていきたい。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	文と文との意味のつながりを考えながら、接続語を使って内容を分けて書く問題では、全国・県の正答率を10ポイント以上、大きく上回っている。 漢字を文の中で正しく使う問題で、全国・県の正答率を下回っているものがある。	・家庭学習での反復練習や、漢字ミニテストなどを通して、漢字の読み書きの力の定着を図っていきたい。 ・作文や日記など、文章を書く活動において、既習漢字を使うようにさせる。

宇都宮市立陽東小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	69.6	61.3	63.2
	量と測定	61.6	51.2	52.9
	図形	82.6	75.9	76.7
	数量関係	72.6	66.2	68.3
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方	71.4	61.2	62.2
	数量や図形についての技能	78.5	72.4	73.6
	数量や図形についての知識・理解	69.2	66.4	70.1



指導の工夫と改善

良好な状況が見られるもの 課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	すべての問題で、正答率は全国・県よりも上回っている。 四則演算や工夫して計算する問題は、県平均を10%以上、上回っている。	・単元が終わっても、分数や小数の計算を家庭学習などを通して行っていきたい。
量と測定	すべての問題で、正答率は全国・県よりも上回っている。 記述問題は、正答率が高いものの、無回答もある。	・無回答がいたということで、問題を把握することが困難だった可能性がある。問題場面を図などで表し、場面的に確にとらえられるように指導していきたい。
図形	すべての問題で、正答率は全国・県よりも上回っている。	・基礎・基本の問題から、いろいろな図形の問題に慣れることが必要だと思われる。 ・図形を切ったり貼ったりすることで、図形の様々な性質が分かるような指導をしていきたい。
数量関係	すべての問題で、正答率は全国・県よりも上回っている。 式を立式する問題や求め方や理由を記述する問題では、県平均を10%以上上回っている。 「何の何倍か」の割合の問題が全国・県より下回っている。	・割合の問題では、比べられる量やもとにする量が問題のどこを指しているのかが重要である。簡単な数で多くの問題に取り組みさせることが必要だと思われる。また、数直線などで、問題の数字と割合を対応させることや、大小関係をはっきりさせることも重要である。

宇都宮市立陽東小学校 第6学年 児童質問紙

傾向と今後の指導上の工夫

良好な状況が見られるもの 課題が見られるもの

○ 質問(29)「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」、質問(34)「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいると思いますか」、質問(35)「5年生までに受けた授業では、課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか」の質問に対して、いずれも肯定的回答率が全国・県平均を上回っていることから、自分の考えを分かりやすく発表しようとする意識が高いことが伺える。引き続き意欲的に取り組めるよう指導していきたい。しかしその反面で、質問(36)「5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたと思いますか」の質問に対しては、肯定的回答率が県平均を下回っている。このことから、友達の発表を受容的な態度で聞くことのできるクラスの雰囲気醸成と、発表の際に必要な情報収集の仕方や話の構成・表現力について基本的な事項の指導を行ってきたい。

○ 質問(21)「読書は好きですか」の質問に対して、肯定的回答率が全国・県平均を上回っているが、質問(19)「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書を読みますか(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)」の質問に対して、30分より少ない児童の割合も高い。本調査から読書が好きな児童が多いことが伺えるため、自発的な読書の励行に力を入れていきたい。

質問(18)「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む)」の質問に対して、学年相当の1時間より少ないと回答した児童が学年全体の3割程度いるため、宿題の量や内容を工夫したり、誰もが1時間以上家庭学習できるよう指導を行ってきたい。

○(11)「学級みんなで話し合って決めたことなどに協力して取り組み、うれしかったことがありますか」の質問に対し、肯定的回答率が全国・県平均より10ポイント以上高い。質問(10)「難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦していますか」の質問に対しても、肯定的回答率が全国・県平均より10ポイント以上高い。いろいろな活動に対して、クラスでのまとまりを大切に取り組んできたことが大きく影響していると思われる。また、質問(32)「あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解説方法を決めていると思いますか」の質問に対しても、肯定的回答率が全国・県平均を大きく上回っており、異なる意見や立場を尊重し、力を合わせて集団生活の向上に努めていることが分かる。

○質問(23)「今住んでいる地域の行事に参加していますか」、質問(24)「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか」の質問に対して、肯定的回答率が全国・県平均を上回っている。地域に子どもが参加できる様々な行事があり、地域全体で子どもを育てていこうとする体制が整っていることで、地域のために自分にできることを考えながら児童が安心して生活していることが伺える。

宇都宮市立陽東小学校(第6学年) 学力向上に向けた学校全体での取組

学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
<ul style="list-style-type: none"> ・国語科における言語活動の充実。特に「読み」と「書き」を相互に関連させた授業の展開 ・基礎基本の徹底 ・ペア学習やグループ学習を中心とした学び合い 	<ul style="list-style-type: none"> ・国語科における教材研究や授業研究。朝の学習「視写プリント」への取り組み。 ・学習に対して困り感のある児童に対する支援。 ・様々な授業における、目的に応じた学習形態を工夫。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本校児童は、国語、算数、質問紙において、ほぼ、すべての項目で全国・県平均を大きく上回っている。このことから、これまでの取り組みの成果が表れてきていることが分かる。今後も引き続き、継続して指導していく。

学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えが相手にうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表してきていると答えた児童が県や国の平均を下回った。 ・無回答児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎基本の徹底。 ・言語活動の充実 ・個別に対応した既習学習の丁寧な復習。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを相手に伝えるための、情報収集の仕方や話の構成・表現力について基本的な事項の指導。 ・朝の学習の時間を生かした個別学習の充実。 ・読書活動の推進。